



グリーンリボンライダー活動

日本移植支援協会は、臓器移植の啓発活動を2000年より実施してまいりました。

周知活動の主な内容は、チャリティコンサートやプロレスイベントでの啓発活動であったりと幅広く活動して参りました。

発足15年を迎えました2015年に、バイクレースによる周知活動がスタート、鈴鹿8時間耐久オートバイレースに参戦する福岡のチームR S Gの皆木監督、ご協力頂きレース用のマシンにグリーンリボンのステッカーを貼ってレースに参戦頂きました。

2015年：グリーンリボンとオートバイの初のイベントとなった鈴鹿8時間耐久オートバイレースは、読売新聞、朝日新聞、伊勢新聞に大きく掲載され広く大成功。

2017年：バイク会のレジェンド、風間深志様にも、活動を応援頂き、ツーリングイベントS S T Rでの啓発活動も実施致しました。

2018年：この年の鈴鹿8耐は、R S G様、R S I T O H様の2チームに、ご協力をいただきました。

2019年：この年も鈴鹿8耐は、R S I T O H様にご協力。12月には渋谷ヒカリエでコンサート、プロレス、空手、バイクの異種混合イベントを実施、業種を超えた移植支援の啓発活動でタッグ。今後も協力体制が整いました。

2020年：K'sSTYLE藤木様のご協力によりチームグリーンリボンが発足、しかしコロナ禍により途中大きくイベントが制限された中でしたが、

富士スピードウェイのミニ6耐・モテ耐に参戦、栃木テレビの取材も入り移植支援の啓発も成功となりました。

2021年：チーム発足2年目の今年、カワサキのNinja250でモテ耐参加、高橋理事長応援もあり総合32位クラス2位と好成績を収めました。毎日新聞にレースによる社会貢献の啓発活動を掲載されました。今年もコロナ禍の中、恐らくパドックの感染症対策を行い参加致しました。（感染症対策スポンサー様：ディレクトシステム様、ニッセン様ありがとうございました。）

2022年：チームグリーンリボンライダー発足3年目もモテ耐を参加予定です。ライダーもオリジナルメンバーに加えて異色のゲストも交渉中更なる飛躍をご期待ください。

このコロナ禍で自粛を強いられているライダーの皆様にもお役に立てるようなイベントも計画しております。レース参加時は、感染症対策ではパドック前に自動検温器付きディスペンサーを設置、参加者は抗原検査を実施、安全に参加する予定でございます。

臓器移植支援の啓発と感染症対策、更には災害対策といった事でもライダーが社会に貢献し広く認知され、世の中役に立てるような活動を実践していきたいと思っております。皆様のご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

日本移植支援協会 ランティアーズ 酒井 勇一

2015

鈴鹿8耐R
S G様ご協力

2020

チームグ
リーンリ
ボン
ライダー始

2022

オートバ
イ
ライダーの
社会的地位





特定非営利活動法人
日本移植支援協会

日本移植支援協会の活動

1997年10月16日に臓器移植法が施行されてから、初めて1999年2月28日に脳死からの臓器提供が成され注目を集めました。旧総理府の世論調査によると、意思表示カードの配布数も1000万枚を超え、全人口の約1割が手にしていることになっております。

とはいえ、まだまだ日本における臓器移植の理解・推進のためには、世論形成・意思表示カードの普及等に関わる活動が必要です。

日本移植支援協会では、臓器の機能に障害があり、その機能回復または付与を目的として臓器の移植手術を受けようとする者と、その家族のサポートをいたします。

そして、レシピエント（臓器の移植術を希望する人、または移植術により臓器提供を受けた者）の回復と社会復帰を図るとともに、「一人でも多くの国民の健康で幸せな生活に寄与すること」を目的としています。

これからも理事、代表、会員の皆様、ボランティアの皆様と共に、尊い命を救う移植医療に一石を投じ、推進啓発活動に力を注いで参りたいと考えております。
今出来ることを精一杯実践して参りますので、どうぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

日本移植支援協会
理事長 高橋 和子

